

ゆたか小学校 第4回コミュニティ・スクール協議会 報告書

- 1 開催日時 令和8年1月25日(日) 8:40~11:30
- 2 場所 ※日曜授業参観(発表型授業参観) 8:40~10:45
CS協議会(校長室) 11:00~11:30
- 3 参加者 上原義仁(校長)、棚原綾乃(教頭)
宜保樹、譜久村さつき、大田正樹、竹内清文、渡辺秋子
村社真知子、宮城美智子 (10名)

4 会議内容

(1) 今回の会議の主なテーマ

児童が主体となる発表型授業参観

～一人ひとりが主役となり、学びを共有する姿～

(2) 話し合いの内容

- ①発表型授業参観における「児童が主体となる発表型授業参観」について
- ②その他

(3) 全体概況：発表型授業参観の意義と成果

今年度の授業参観は、従来の「参観」の枠を超え、児童が主体となって学びをアウトプットする「発表型」の形式がとられていた。全体を通して、「発表が得意な子も苦手な子も、全員に役割と出番がある」ということが実現されていた。大変良かった。

(4) 各学年の活動

【環境の工夫】 廊下側の窓を外してオープンスペース化。教室内の活動が可視化され、保護者の参観しやすかった。教職員の迅速な対応・機動力に感謝の声があった。

【表現の多様性】 全体発表があった学年で、手話を用いた合唱は、心に響くものがあった。その後、英語や体育などのブース発表へ展開。個々の主体性が光り、保護者も一緒に活動に参加している場面も見られた。

【探究の深まり】 自身で調べた「探究学習」をブース形式で発表。自分の言葉で調べた内容を伝えようとするところに、自律した学びの姿があった。

【確かな成長】 小さな声であっても、一人ひとりが自分の役割を全うしようとする姿勢が見られた。また、発表者だけでなく、それを支える「聞く態度」も非常に良かった。

検討事項：恒例となっている「学年オリジナル T シャツ」を着用。一体感が醸成されているが、保護者の意見も収集してほしい。

5. 成果

○「個」を置き去りにしない支援のあり方

発表が苦手な児童に対しても、教職員が適切に促したり、隣に寄り添ったりする場面が見られた。これにより「全員が参加している」という安心感が生まれ、声を出しにくい児童も含め、全員が主役になれる場が確保された。

○「教師の介入」による学びの深化

子供たちの発表に任せきりにするのではなく、教師が要所で補足や解説（価値付け）を行うことで、発表内容がより深い学びになっていた。

○ICT（スクリレ）の活用と連携

各学年からの案内状が「スクリレ」を通じて迅速かつ確実に配信された点は、保護者への周知や確認ができて良かった。

○場の設定

昨年度の課題を活かし、今年度はブースの配置や動線の確保に細やかな配慮がなされていた。「ごちゃごちゃした印象」がなく、参観者が落ち着いて子供たちの姿を見守ることができる、適切な場設定だった。

6 次回予定 令和8年3月6日（金）CS 熟議・6年生を送る会 9:00～12:00